

## JOMF 派遣医師便り (2018. 2)

### ◆マニラ◆

## 姫路市でマラソン中の心肺停止に心肺蘇生術で救命—マニラでは？

マニラ日本人会診療所

菊地 宏久

2018年2月11日のインターネットニュースによれば、姫路市でのマラソン大会中に42キロ付近で転倒、心肺停止状態。走行中のランナーやボランティア、救急救命士の「メディカルランナー」が連携し、心肺蘇生術・AEDで救命措置を行い患者さんが助かったという。

フィリピンでもマニラを含めて地方都市でマラソン大会が盛んに行われ始めている。炎天下での競技だが、日本人も参加している大会は少なくない。フィリピンではマニラ首都圏を含めてAEDが設置されている場所は大きな病院、空港などに限られている。学校や公営施設、ショッピングセンター、一般の診療所等にさえ設置されていない。また緊急時の一般市民ができる心肺蘇生術に関する知識や実技の普及も非常に遅れている。

さらに残念ながらマニラの救急医療は日本とは比較にならないほど遅れている。救急車をコールする時点で大きな時間をロスする。救急車搬送を依頼するときは患者側の行きたい病院の契約する救急車搬送会社に電話依頼する（日本人が受診希望するような私立病院では病院傍に併設されていることが多い）。搬送可能な救急車がちょうど待機していればその時点で搬送準備をしてくれるが、そうばかりとは言えない。連絡時の会話にはもちろん日本語が通じない。発症現地場所、患者病態、病態経過などを異常な心理状態で説明しなければならない。私の経験では現場に救急車が到着するまでの時間は早くても30～40分、遅い時には2時間以上かかっている。

このように長い時間をただ待つてはいられない。救急隊が到着するまでの間に我々が現場できること、やらねばならないことを行わなければならない。このような意味からも家族や知人の急変に対して心肺蘇生術やAED使用法について学んでおくことは非常に大切なことと考える。

このような状況を踏まえマニラでも心肺蘇生セミナーをこれまでも開催してきた。次回で32回目になる。次回心肺蘇生術実技セミナーは2018年2月24日（土曜）、マニラ日本人会診療所の待合所で開催。指導は大使館医務官の佐藤一也先生と私。

このセミナーは今後も随時開催しますので皆さんもぜひご参加ください。